



# せいび

12月特別号

朝夕冷え込む季節になりました。本年度もあと1か月となりました。全国学力学習状況調査の本校の分析がまとまりましたのでお知らせします。この調査は、全国の6年生が対象になって毎年行っています。本校の子どもたちの傾向がわかります。今後の子どもたちの成長の糧にしていきたいと思えます。具体的な手立てもあります。ご家庭での指導の参考にして下さい。

## 学力学習状況調査～成美小の傾向

### 国語

本校は、書くことを一つの重点として取り組んでいる。日記指導や授業の中でのノート指導など書くことへの指導が浸透してきている。特に授業の最後の振り返りなどの活動、家庭学習の漢字書き取りなど年間通して取り組んでいる。子どもたちは書くことに慣れていて、進んで取り組んでいる。そのため目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書くことは伸びている。今後も継続していきたい。具体的には、授業の中で音読や暗唱を取り入れる。現在本読みカードは使用しているが、今後よりよいものにするために見直す必要がある。その際、音読や暗唱の方法を授業で指導したり、参観日に保護者に公開したりすることで、家庭と連携して取り組む必要がある。こうした取り組みを学校だより等で随時発信する。

### 算数

計算問題については、県平均を上回り良くできた。逆に図形の問題に課題が残った。「三角形の角」「平行四辺形の特徴」「正三角形の周囲の長さ」「図形の面積」の問題が県平均を下回った。今後は、図形の学習を重点的に復習していく。

整数の基本的な①計算問題は比較的できる。正答率100%の問題もあり、確実に定着していると考えられる。整数の和差積商の意味と計算の方法が身についている。小数の計算も比較的正答率が高く、整数の計算、小数の計算は定着している。②最大公倍数の意味もよく理解しており、具体的な場面を通して最小公倍数、最大公約数の意味には理解している。③資料の分類整理も、二つの資料から情報を読みとることができている。以上のことから、本校の児童は基本的な計算がよく身につけていることがわかった。

### 児童質問紙から見える子どもの姿

・本校の児童は、規則正しい生活をしている。学校で好きな教科がある子が100%である。学校が好きな子が多い。授業の欠席も少なく、1クラスではあるが、クラスの子どもの人間関係も温かい。学校を楽しみに、また明日も来たいと思っている児童が多い。児童は素朴で純粋な子が多い。特に「学級みんなで協力してやりとげ、うれしかったことがありますか」という質問では、そう感じている児童が96%以上とみんなのために頑張ろうとする気持ちも強い。家族と過ごす時間は全国平均より多い。

学校評価と共通するが、友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意な児童もいれば、4割以上が得意でないと考えている。人前で発言することに抵抗を感じている児童もいる。家庭の学習時間も比較的少ないようである。特に家庭での予習、復習する時間は少ない。

この結果を念頭に置き、良いところはさらに伸ばし、学習については基礎基本の定着を図っていきます。今後も、学校・地域・保護者が連携して子どもたちを育てていけますよう、ご協力をお願いします。